

投稿

新春所感

町田喜久雄

埼玉医大名誉教授

早春の3月ですが、東京はまだまだ寒い日が続いています。会員の皆様の地方は如何でしょうか？

昨年（平成16年）3月に定年で埼玉医科大学を定年退職し、4月から現在の勤務先におります。立川からも川越と同様に晴れた日には、雪で真っ白な富士山が望見でき心を慰めてくれます。

さて、長い大学生活から、今の検診センターに勤務先が変わって、もっとも痛感した落差は、大学には自由があって、研究、教育、診療を enjoy 出来て、良かったと思うことです。医学部卒業後、定年まで、大学病院に勤務していたので、とくにそう感ずるのかもしれませんが。もちろん大学にも、それなりの苦労はありましたが、検診センターに勤務して感じる事は、「浮世」というか「娑婆」に出てきたという感じがします。職場の事務などの職員も大学とはかなり意識が異なり、戸惑うことが多く、時には困惑します。

同じような経験を有する方もおられることと思います。

さて、本研究会も1973年の第1回松川明会長（福島医大）から今年2005年の第34回福田国彦会長（慈恵医大）まで歴史を重ねております。本研究会雑誌の終わりの方に歴代の研究会会長を掲載しありますが、これはこの研究会が長い歴史と伝統を有している事を示す目的です。

放射線科における画像診断は、単純X線写真や在来の断層写真から、今では、CT, MRI, US, SPECT, PET という断層映像が驚くべき発展を遂げつつあり、疾病の診断・治療に極めて大きな比率

を占めていることは、日々身を持って感じるどころです。

本研究会の責任はますます大きいと思います。

1998年、浜松の本研究会で、機関誌の編集委員長を金子昌生会長から引継ぎ、昨年2004年の3月には、本田憲業教授に無事バトンタッチをしました。

在任中には、従来年2回であった発行を年4回の発行（季刊）にしたりしましたが、最近は、春、夏、秋の3回の発行になっております。

本誌では、論文は2名の査読者によって、査読されますが、その為に学位論文がしばしば掲載されました。査読の労を取って下さった会員の先生にはこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

もう一つ試みたことは、ゲストエディター制度の導入です。これは一つのテーマをゲストエディターの方に決めて貰い、なるべくその周囲の方に論文執筆を依頼して頂き、纏めて頂く方式です。担当の方は大変ご苦勞をなさるわけですが、会員には、まとまった勉強が出来る大きな利点があります。お世話になった先生方には、改めてお礼申し上げる次第です。

なお、本誌掲載の論文はインターネットでも検索し、ダウンロード出来ます（有料）。必要に応じてご利用をお願い致します。

まだ、述べたいことが有りますが、次の機会にしたいと思います。

春めくや 江戸の香りの 平林寺

(雪月花)